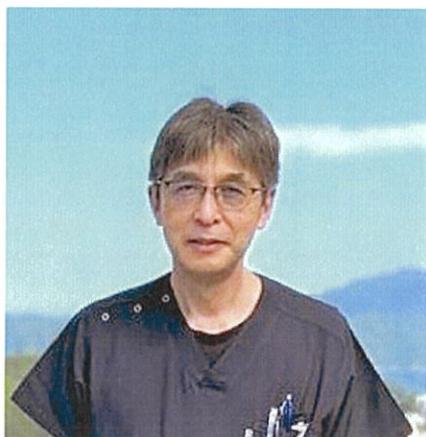




Baton

令和6年1月
岩手県立宮古病院
地域医療福祉連携室



年頭のご挨拶

院長 川村 英伸

新年明けましておめでとうございます。

今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」で、成功という芽が成長していき、姿を整えていくという意味があるそうです。

元日より能登半島で大地震が発生したり、2日には羽田空港で飛行機事故が発生したりと、なんとも悲しい年の始まりとなりました。1月6日、能登半島の病院（石川県七尾市：公立能登総合病院）へのDMATの派遣要請があり、翌日、吉田健先生らスタッフ5名が宮古を出発しました（11日帰着予定）。能登半島をはじめとする被災者の皆様にお見舞い申し上げるとともに、今後のいち早い復興をお祈りいたします。

新型コロナウイルス感染症が世界に拡大してから、すでに4年以上が経過しました。昨年5月の連休明けから感染症の5類に引き下げられ、現在9波が終息し落ち着いているところです。とはいえ、昨年当院は7回の院内クラスターを経験し、一般診療を抑制しないで診療を継続するよう努めました、やはりその影響は大きなものがありました。

また、昨年末は11月からインフルエンザも流行し、現在も定点あたりの患者数は、30を超える警報レベルとなっています。これらのウイルス感染症は、今後も共存の道を探りながら対応せざるを得ない状況であると思われれます。

今年4月より、医師の働き方改革が実施されます。長時間労働が常態化している勤務医の労働環境の改善が狙いで、時間外・休日労働の上限規制が原則年960時間となります（例外あり）。

しかし、タスクシフトやタスクシェアによって、医療の質の低下や患者サービスの低下を招くことが懸念されます。

また、医療人材が不足している岩手県立病院では、労働時間が自己研鑽へとシフトし、結局、「実質の労働時間」は変わらず、本来の目的であるワーク・ライフ・バランスを実現し健康的に働くことに繋がらないのではという恐れもあります。

患者様への医療サービスを低下させることなく、これまで同様、患者様の訴えに耳を傾ける事が大事と思います。

10月からは、当院の改修工事（リフォーム）が始まります。診療体制をほぼ保ちながら2病棟ずつの工事が3年間かけて行われます。化学療法室と透析室は移動し、5階と8階を病棟の移動場所として、順次工事していきます。皆様には、大きな不便やストレスをお掛けしますが、なんとかこの工事を乗り越えなければいけません。

冒頭でなんとも不安なスタートとなったことを述べましたが、最近、予期せぬ甚大な自然災害が世界各地で起きようになり、もはや対岸の火事ではありません。いつ災害が起こっても対応する準備や心構えが必要と思います。

皆様にとって平和で良い年でありますよう祈念して、年頭のあいさつとします。

認定看護師のご紹介

当院では現在、9分野(感染管理、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、乳がん看護、脳卒中リハビリテーション看護、摂食・嚥下障害看護、救急看護) 9名の認定看護師が在籍しています。

今回は、感染管理、乳がん看護、皮膚・排泄ケアの3分野の領域をご紹介いたしました。

今回は、摂食・嚥下障害看護、救急看護の認定看護師の活動をご紹介します。



摂食・嚥下障害看護
認定看護師

竹内 英晃

【自己紹介】 令和元年7月資格取得

これまで出会った患者さんの「食べたい」気持ちに答えられなかった経験から、摂食・嚥下障害看護認定看護師を志望いたしました。

【活動内容】

さまざまな病気等で食べることが難しい患者さんの食べる力・飲みこむ力を評価し、多くの職種と協働しながら口腔ケアや訓練を行いながら安全においしく食べることができるよう活動しております。

【地域の皆様へのメッセージ】

食べることは生活の一部で、楽しみや喜びであります。さまざまな病気等で「うまく飲みこめない」「むせやすくなった」などがありましたら、早めにご相談、ご連絡ください。いつでもお待ちしております。

「食事介助」「内服介助」「口腔ケア」「誤嚥」「窒息」等をテーマとした研修依頼にも対応しております。

今後もみなさんとともに、「安全においしく食べる」を考えていきます。よろしく願い致します。



救急看護
認定看護師

古舘 勇一

【認定看護師を目指すきっかけ】

元々救急看護は領域を問わず、幅広く知識や技術を身に付けられると考えており興味を持っていましたが、海難事故に見舞われた方を救護した事が救急看護認定看護師を目指すきっかけとなりました。

当時務めていた病院の目の前でその事故は起こり、偶然に居合わせた私は知識や技術も未熟でしたが、一緒にいた救急に従事する友人が的確に判断・処置を行いその方は迅速な治療が受けられ救命することができました。

集中治療を終えた患者さんは、当時私が配属されていた一般病棟に転棟してきました。その際、受傷時の救護に関して患者さんとご家族より感謝の言葉を頂きました。しかし、その時何も出来なかった私はその言葉に対し素直に喜ぶことが出来ず自分の無力さを感じ、今回のように命の危機的状態に陥った方やその家族を支えられる看護師になりたいと思い認定看護師資格を取得しました。

【活動内容】

現在の活動は院外、院内での心肺蘇生の講習会や院内スタッフに対する救急に関連する勉強会の開催、人工呼吸器装着患者さんの早期離脱や合併症を予防する目的で医師、臨床工学技士、リハビリのスタッフと共に定期的にラウンドを行っています。

【地域の皆様へのメッセージ】

急に発症する辛い病状などで救急外来へ来院される際には患者さん、ご家族に寄り添った看護が提供できるように務めさせていただきますので宜しくお願いします。救急に関わる困り事などがありましたらお気軽にご相談下さい。

地域医療福祉連携室



連携室のメンバー 11人の紹介です



患者、家族等からの医療に関する相談等に適切に応じ、患者等を支援しています。担当へ繋がらない場合は、他のMSWでも対応可能です。

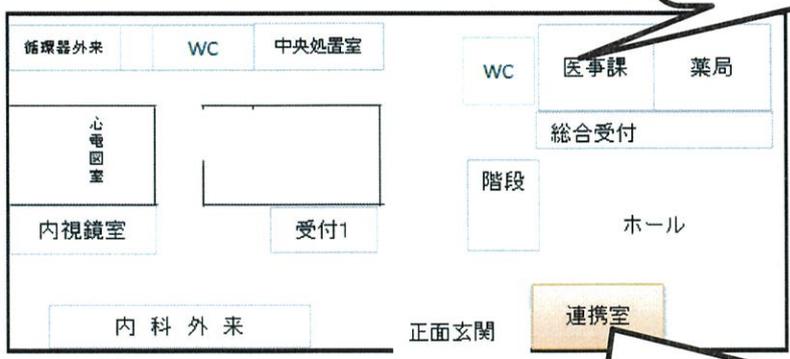
医療機関からの紹介による診療申込の受付、お返事や逆紹介の窓口です。

入院早期からの継続的な関わりを通じて、患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域での療養や生活を継続できるように支援しています。

8Fへ転棟した患者の退院支援の担当は変わりません。

部門ごとに事務室の場所が異なります。退院支援看護師の事務室は5階です。普段は病棟にすることが多いです。

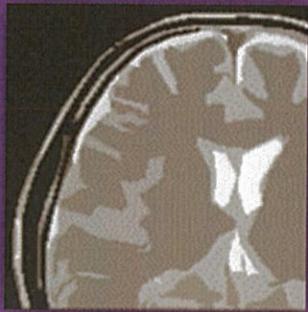
前方連携 事務職員3名



引続き連携室業務にご協力お願いします

MSW 3名 入院時支援看護師 1





診療放射線業務検討委員会

MR専門部会通信

行政端末メール：chuo-mri@pref.iwate.jp

2023年12月28日

ステラネットメール：医療局 MR 専門部会

第11号

この号の内容

1. **MRI**と**CT**の違いは？
2. **MRI**と**CT**をリンゴの画像で比較！
3. 撮像条件を変えた**MRI**画像の一例

1. **MRI**と**CT**の違いは？わかりやすく解説！

画像を撮る検査で良く目にする**MRI**と**CT**ですが、みなさんは2つの違いを御存じでしょうか？どちらも大きな筒の中に寝た状態に入る検査で、装置の見た目も似ている、輪切りの画像が撮れる・・・などをイメージすると思います。

今号では**MRI**と**CT**の画像の違いや得意とする分野について、解説します。

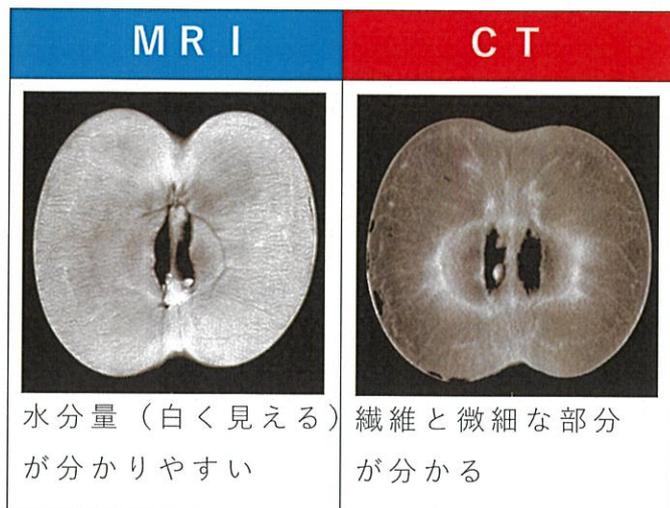


MRIと**CT**では、どちらが良いの？

MRIと**CT**はそれぞれに得意・不得意があるため、どちらの検査が優れているということはありません。どちらの検査が適しているかは、検査部位や目的によって変わってきます。

	MRI	CT
原理	磁場と電波を利用	放射線（X線）を利用
被ばく	なし	あり
検査時間	長い（20分～1時間）	短い（10分程度）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織の濃度差が分かりやすい ・ 造影剤未使用で血管が撮れる ・ 騒音がある ・ 狭く長いトンネルに入る ・ 体内金属があると検査不可も 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かなものまで見えやすい ・ 骨、肺の観察に良い ・ 検査中の音が小さい ・ 広範囲を短時間で撮影できる ・ 体内金属があっても検査可能
得意な病気 & 部位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期脳梗塞 ・ じん帯・半月板 ・ 神経 ・ 骨腫瘍病変 ・ 子宮・卵巣 ・ 前立腺・膀胱 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳・頭蓋内の出血 ・ 肺癌や肺炎 ・ 骨折 ・ 尿路結石 ・ 腸炎・腸閉塞など 

2. MRIとCTをリンゴの画像で比較！

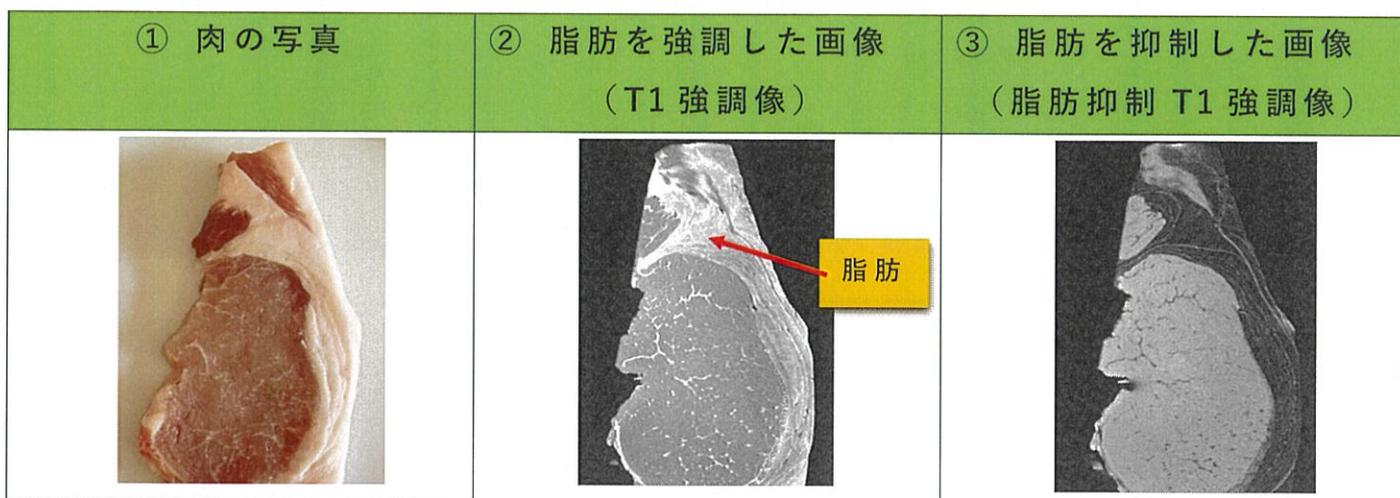


MRI 画像は水分量の多いところを白く描出します。多くの病変（炎症・梗塞など）は白っぽく描出されますので、正常と病変の差が分かりやすくなります。

一方、CT 画像はMRI 画像よりも細かく小さな病変も描出すること、かつ、広範囲の検査を短時間で撮影できますので、緊急時の検査・スクリーニングに適しています。

このようにそれぞれの検査を使い分け、時には他の検査と組み合わせ、補完し合うことにより画像診断を行うことができます。

3. 撮像条件を変えたMRI画像の一例



MRI は撮像条件を変えることによって、様々な種類の画像を得ることができます。リンゴのMRI 画像は水分を強調した画像でしたが、上記の②は脂肪が白く強調される画像です。造影剤を使用した検査では、造影剤によって染められた部分（腫瘍など）は脂肪と同じように白く描出されやすく、そのままだと見えにくくなってしまうため、③の画像のように脂肪だけを黒っぽく描出する画像を撮ることで、病変部分をより強調した画像を撮ることができます。

今回は水と脂肪を強調した画像を紹介しました。この他にも様々な種類の画像を撮る事ができるMRI 検査は、画像診断の重要な一翼を担っています。

MR 検査について疑問や意見、要望などがありましたら部会までご連絡ください。

行政端末メール : chuo-mri@pref.iwate.jp

ステラネットメール : 医療局 MR 専門部会